

柏稲門会だより

第15号

柏稲門会

毎年12月発行

早稲田大学の最近の動向

早稲田大学は二〇三二年の創立一五〇周年を見据え、一二年に中長期計画「Waseda Vision 150」を策定し、一八年に現田中総長が就任後、その第二ステージの取り組みを進めています。このビジョンは、早稲田大学を「世界でかがやく大学」にすることが目標とされています。

「世界でかがやく早稲田」を実現するには、教職員や学生だけでなく、校友など全関係者の「覚悟」と「思い」が無ければ出来ません。現在世界をリードするアメリカの大学も、三〇年代からヨーロッパの有力大学に追いつくという覚悟を持ち、新しい取り組みや体系的な大学教育を進めた結果、七〇年代になって追いつきました。

大学が学生に望むのは「たくましい知性」と「しなやかな感性」です。「たくましい知性」とは、今、人類が直面する答えのない問題（地球の温暖化や少子高齢化など）に対して、自分の頭で考え、自分なりの解決策を出せる知性です。それに対し「しなやかな感性」とは多様性を認めること。自分とは異なる人々の考え方や感じ方を理解できる感性を意味します。この二つがそろった人材こそが真のグローバルリーダーになると言えるでしょう。

学は、昨年二月に新型コロナウイルス感染症対策本部を設置し、多くの対策を実施して来ています。三月の半ばには全授業のオンライン開催を決め、八月からは全教室を十分な換気が出る空調機に入れ替えました。二一年度は感染対策を行いつつ、対面による卒業式・入学式や対面授業七割を目指した授業運営を行っています。度重なる緊急事態宣言などで苦慮しています。しかし、九月には学生のワクチン接種率が50%を超え、来年度に向けて改善されるでしょう。

幹事長 馬場由彦（昭五二・法学）



大隈侯銅像（早稲田大学）

コロナ新語の浸透と新聞

井内康文（昭四〇・政経）

「コロナ新語」が浸透している。九月二五日付の新聞各紙が次のように報道した。文化庁は今年三月、毎年恒例の「国語に関する世論調査」をした。全国の一六歳以上の六千人を対象に有効回答は三

七九四人（63.2%）。その中で新聞やテレビでよく登場する「コロナ禍」など八つの新語について「そのまま使うのがいい」「説明を付けた方がいい」「他の言い方をした方がいい」のどれに当たるか尋ねた。印象や慣用語の浸透ぶりや理解度をみた。

「不要不急」（67.2%）、「三密」「ステイホーム」（ともに61.1%）、「クラスター（51.3%）」など七つは「そのまま使うのがいい」との回答が半数以上を占めた。「ウィズコロナ」だけが29.1%と特に低かった。最も高い一六〜一九歳の層でも38.2%、七〇歳以上では23.1%しかなかった。「ソーシャルディスタンス」は56.5%が「そのまま」だったが、七〇歳以上では33.8%と不人気。「社会的距離」とか訳される。私などは日本語でも舌がもつれるので使わない。

今回の八つ以外の新語には「ロックダウン」（都市封鎖）とか「フレイル」がある。「フレイル」の訳語は新聞ではよく分からない。読売は「新型コロナウイルスの感染拡大で、介護が必要となる一歩手前の段階」。朝日は「要介護の前段階、心身の活力が衰えるフレイル（虚弱）」。毎日「一年をとるにつれて認知機能や体力が低下し、本人の自覚がないまま健康な状態から要介護に移行していく」などと説明している。まだ一般化とは言えず、文化庁が調査対象から外したのは当然か。九月九日、柏市内で三八番目となったクラスター（二五日現在、生徒三〇人）は、私立高校。柏市のプレスリリースは校名を伏せ、報道機関には「提供資料の範囲内での報道に格段のご配慮をお願いする」と注文。こんな注文にも拘わらず報道各社は独自取材で過去三七件の名称を明らかにしてきた。それなのになぜか今回は言いなり。長丁場でマスコミ側にも意欲低下というフレイル状態が起きているのか。

都の東北

このコロナ禍の時代、「なるべく家に居る」、「時間は十分ある」となると、我々の世代では、「本でも読もうか」ということになる。▼そんな折

に、本屋で偶然見つけた次の二冊は、今の本選びに有効だった。▼そのうちの二冊は、『わたしのなつかしい一冊』（毎日新聞出版刊）。「若い時はまだ本を読む力が足りない」「何十年もたって、そういう本が帰ってくる」と、編者の池澤夏樹氏が「まえがき」に書いている通りで、五〇人の人気作家や俳優、学者等が何度も読み返す「人生の一冊」について語る。▼例えば、河瀬直美は『ムーミン谷の彗星』、さのあつこは『人間の絆』、高階秀爾は『陰翳礼賛』などなど。▼もう一冊は、『児童文学の中の家』（深井せつ子著、楳エクスナレッジ刊）、『赤毛のアン』や『若草物語』など二七の名作の中に登場する家や住い、イラスト付きで楽しく案内している。▼この二冊のおかげで、昔読んだ本も改めて新鮮に読めた。

月兎（昭三七・商学）

特集

ポストコロナへの期待

ポストコロナへの期待

富田康彦（昭四四・政経）

コロナ禍はいずれ終息に向かい、人々の生活はワクチンと治療薬が開発され、多少の制限が有るとしても普段の生活に戻る日が来ると期待している。然し乍ら、コロナ以前と全く同等の生活に戻るには一、二年は覚悟が必要ではなからうか。

思い起こせば、今から約一年半前の二〇二〇年二月頃に、日本のみならず全世界が、コロナウイルスにこれ程ダメージを受けるとは、一部の国を除いて想像だにしなかった。この間、国内では感染対策を巡り二転三転する場面が見られ、国民はテレビの報道を通じて政府の対策本部会議の決定事項に一喜一憂していた。然し乍ら、対策本部会議は単なる発表の場で、実態は政治家、首相補佐官、主要省庁事務次官等一六名の事前会議が意思決定機関となり、専門家会議への諮問を経る形式をとり、対策本部会議で結論のみを発表する場となっている。首相が決定事項を読み、対策本部会議での議論がなされたかは、国民には分からない。謂わば、「大本営発表」を聞いているような形式主義の感さえある。

今般の Pandemic 下に於いて、嘗て何回も言われてきた事が改めて浮き彫りとなった、即ち「根拠なき楽観」、「科学の無視・軽視」、「物事の矮小化」、「縦割

りの弊害、始めたら止められない組織」、「想像力の欠如」と言う種々の課題が浮き彫りとなり、社会が迷走した。

世界を見渡しても、国の指導者は「コロナは風邪の様なもの」と言ったり、かたや国民に、今年が祖父母に会える最後の年にしない為に行動を自粛する様に呼び掛けたりと様々であったが、どの施策がベストであったかに正解はなく、世界全体でワクチン格差が広がった。

日本のバブル崩壊後は「失われた二〇年」と言われたが、二〇二〇年初めからのパンデミックが将来、「失われた三〇年」と言われる事なく「日本の現在・将来の感染対策」が、日本モデルとしてある意味「Global Standard」と言われる様な社会経済体制になり、低迷した経済の回復と、日本の研究開発力が発揮される時代が来ることを期待している。

これは今秋には発足する新政権の双肩に掛かっているが、きっとやり遂げられると期待している。

ポスト・コロナを考える

川崎清明（昭四二・政経）

二〇一九年末に始まった新型コロナウイルスの世界的な流行の原因は定かではないが、世界で五億人が感染し、五千万人、一億人が死亡したとされる一九一八年、一九二〇年のパンデミック「スペイン風邪」を彷彿とさせる。既に感染者は二億人を超え死者は四二五万人に達している。

私は医学も生物学も門外漢でこのようなパンデミックの原因については不案

内だが、何らかの人為的な要因で出現した様な気がしてならない。スペイン風邪が産業革命を経て流行したように、地球のオーバーユースによる環境変化が原因ではなのではないかと疑っている。

数々の古代文明が、地球資源のオーバーユースによって滅びて行っただと同様に、自然現象の変化は文明への警告と受け止めなければならぬのではないか？ ポスト・コロナを考える時に、マスク・三密回避・ワクチン接種・治療薬などの対策もさることながら、「文明への警告」という視点を避けて通ることは出来ないのではないかと、考える昨今である。向かい合って会話の出来る日を待ち望んで。

いつからか並んで食ぶる黒葡萄 清明

変わる日常

郡司容文（昭五二・社会学）

今日も、午後四時四五分になろうとしている。最近、毎日この時間に同じテレビを見ている。今日は、青色で先週より何人の減、重症者数は何人、死亡者数は何人と、東京都からの新型コロナウイルス感染者状況が、速報で発表されているからである。

最近では、感染しても病院や簡易ホテルにさえ入れない人は、自宅療養者と呼ばれ、九月一日時点で、全国で一三万人を超えた。まさに自宅放置者と言わざるを得ない数に膨れ上がり、死者は八月で二五〇人を超えた。我が家でも、八月中旬にやっと二回接種し、ほっとしたところ、今では三回目も必要だとか、毎年インフルエンザと一緒に打つ必要があると

か、そして九月中旬に、日本の接種率の二回目がようやく50%になったと思ったら、集団免疫は90%を超えないと有効ではないとか…。十代へのアンケートで、遊ぶときは友達とワクチン接種をしてくるか気になり、求人サイトでは募集条件に接種確認する企業等が現れ、新たな差別が生まれている。正に、元の日常には戻れない。

これからの日本、自分だけではなく、家族や友達や周りの人たちへの心づかいを大事にする社会にならなければいけない。そして、東京に集中し過ぎる弊害を解消し、密にならない都市づくりも必要であろう。

ドライブしたいね

風間潤司（昭六二・社会学）

コロナ禍でこの鬱屈した気分を晴らすのだ。ハンドルを握ってエンジン始動、好きな曲をががん再生して青空に浮かぶあの白い雲を追いかけて、もちろん制限速度を守りながらね。曲も昔はレコードやCDからカセットテープにダビングして、あと何曲入るか計算したものだけだ。今はスマートフォンからカーステレオに直接飛ばせるようになったから楽なものだ。クルマはといえば、初めて乗ったのが小型の3ドアハッチバック。クラッチは重かったけれどターボがよく吹けあがるご機嫌なクルマだったな。家族ができて所謂ファミリーカーも乗り継いできたけれど、子供たちも巣立った今はまた小型車に。そういえば電気自動車ってどうなのかな？ 走りが楽しめるクルマだと良いな。静かだというけれどガソリ

ン車のエンジンの鼓動は捨てがたいし、実はそのガソリンの匂いも好きだったりする。なんだか古き良き時代を懐かしんでいるおじさんのような、いやもう立派なおじさんか。こんなことを考えてしまふのもコロナのせいなのか、歳のせいなのか。マスクをしているの、していないのなんて息苦しい生きづらい世の中だ。いつかやがてコロナも終息し、そしてまた日常に戻っていくのだろう。それはもう以前の日常ではないけれど、ドライブはしたいね。

五〇周年に向けて

藤原雅子(昭三八・教育)

私は柏市の国際交流協会のボランティアとして、トランス委員会活動をしています。姉妹都市であるトランス市はロサンゼルスからおよそ三〇キロ南にあるビーチ沿いの美しい街です。毎年七月にトランスから団長と八人の高校生がやってきて、約三週間ホームステイをしながら、市役所や市内見学、京都広島ツアーなどを体験します。柏まつりにも参加していますので、ご存知の方もたくさんおいでと思います。

柏からも八月に高校、大学生の派遣生がトランスを訪問し、ホストファミリー宅に滞在し、市議会でスピーチをしたりデイズニールランドに行ったりと、楽しく有意義に交流してきます。コロナのためこの二年間は派遣活動がなかったのが残念です。また五年ごとには市民ツアーを行っております。二〇二三年は提携五〇周年を迎えますので、トランス側では柏市の親善使節団受入れの準備を

着々と進めております。今の状況下で交流が実現するかどうかわ見通しは付きませんが、そのころにはコロナは収束しているという前提のもとに柏サイドも秋に迎えるトランス使節団受け入れの準備を始めています。コロナ以降オンラインになったトランス側の例会に私たちも参加できるように、交流がより密になったのは思いがけない喜びでした。



東京2020ボランティア体験記

安藤達夫(昭四八・理工)

オリパラ両大会のボランティアには二十万人の応募があり、選ばれた八万人の一人として両大会に参加しました。私のような年長者はわずか二%だったそうですが、若い方々に交じって元気に表彰式業務を担当しました。

五輪では、サーフィン(九十九里)と男女サッカー決勝(国立競技場と日産スタジアム)の表彰式に参加しました。ただサーフインは荒天で突然日程が前倒しになってしまい、残念ながら表彰式には出られませんでした。またサッカーでは、女子決勝が前日突然、横浜会場に変更になり、開始時間も夜間になったのには戸惑いました。スウェーデンとカナダは接戦で、延長戦+PK戦でようやく決着。表彰式は深夜になりましたが、役員を表彰台にご案内する役をいただき光栄でした。翌日の男子決勝では金メダル運びました。一個五百グラムもあるので、六個お盆に載せるとかなり重かったです。一方パラリンピックは、都内で屋内会



先頭が安藤さん

場だったため通勤は楽でした。前半の卓球(東京体育館)では日本は不振で、卓球王国、中国勢の独壇場でした。連日のように中国国歌ばかり聞きました。一方後半のパドミントン(国立代々木競技場)では日本勢が活躍しました。男子車椅子の梶原選手が優勝した表彰式では役員を先導させていただき、君が代を聞きながら日章旗を仰ぎ見ることができました。

いくつかの決勝戦には小学生の団体も応援に来てくれましたし、われわれボランティアも時間と席を決めて少しだけ観戦できました。障害を克服してラリーの応酬をする選手たちの姿にはとても感銘を受けました。

延べ十五日のボランティアでしたが、大変貴重な体験をさせていただきました。年長者が表彰式から外されそうになった会場が一つありましたが、最終日は要望通りボランティア間で相談して担当を決めましたので「終り良ければ全てよし」でした。様々な方と顔なじみになったこと、選手・役員の皆さんに喜んでいたことが一番嬉しかったです。

同好会事情

「ご縁の会」の近況

下井美智子(昭四一・商学)

昨年から始まったコロナ感染により、ご縁の会も変化しました。登録頂いた方の最初の面接およびその後のお見合いは喫茶店もしくはホテルのロビーで行っていましたが、今はオンラインで行っています。Zoom未経験の方には事前にお教えして、覚えていただいています。ご縁の会スタッフの定例会議はZoomの活用により時短が可能となり、現在は月二回行っています(写真)。結婚年齢は以前と比べ高くなってきました。登録者は三十代後半および四十歳代が多くなり、五十代の方もおられ、高齢化の時代を反映しています。現在Zoomお見合いをして、何組かの人が交際中ですが、一組でも多くの方が「ご縁」で結ばれることをスタッフ一同、願って努力いたしております。千葉県稲門祭を機縁に、柏以外からの登録者が徐々に増えてきました。印西稲門会の安倉さんにもサポーターとして協力して頂いております。ご縁の報告を頂いた時は本当に嬉しいものです。



ご縁の会スタッフ Zoom 会議

篠田様 追悼文

湯本治文（昭二九・理工）

謹んで篠田幹事さまの靈に哀悼の意をささげます。

四月いただいたメールで完治したのでご安心ください、と申されたので急逝にはただ驚きと運命の理不尽さに茫然自失であります。

何よりもご家族を愛し、郷土北海道は、しばれる夜オリオンの星冨え返り」と詠み、柏稲俳句会において俳号泰平は和を重んじる達見に感服致しております。常に他を引きたて配慮し温顔をもって接してくださいました。

ゴルフ同好会幹事として実質の會長を引き受け、会発展の功績は顕著でコンペ全体をご手配くださいました。今後の会運営は難題時だけにいつそう残念でなりません。その間八年二四回の長きにわたり例会実施、三田会、近隣稲門会との親睦を図り実績向上をして頂きました。例会時には自家用車に愚宅で便乗させて頂き、その安全意識について追従を許さないものでした。またコンペ後のパーティも柏に戻り、西口店を手配され九州人士他メンバーに囲まれながら活気づけをなされ、懇親をふかめたものでした。本当に有難う御座いました。

どうぞ安らかに眠りください、心からご冥福をお祈り申し上げます。

合掌

柏稲俳句会令和三年度作品

悼 句友泰平さんの御霊に捧ぐ

遠嶺へ高く掲げん花辛夷 房司

春 飛梅や亀戸天神三丁目 湯治

二本松岳の湯熱し臘月 泰平

強東風や草に埋もれし道祖神 行

証聴く教会堂に風薫る 桂子

はだれ野に黒牛放つ夜明けかな 清明

春嵐やゴビアを聴く家居かな 晃子

夏 散りてなほ深紅に燃ゆる牡丹かな 康文

風を見ず真すぐがよし夏燕 安分

青しぐれ一遍像の細き足 加行

秋 桜島虹を被りて泰然と 等閑人

始まりはあのサングラス戦後の日 土筆

かなたまで波打つ稲穂たおやかに 宏哲

冬 冬至粥コロナが変へる現代史 雅子

冬帽子取りて香月の絵の前へ 房司



柏の歴史・こぼれ話（10）

「豊四季団地」地域の変遷

この辺り一帯に広がっていた幕府の放牧場「小金牧」の広大な土地は、明治初期には開墾地となり、東京の人々や近隣小作人の二、三男などの入植がはかられた。開墾地は、明治二年の「初富」から始まり「二和」「三咲」「豊四季」と続き、豊四季には、約二百五十戸、千人の人々が入植した。時は移り、昭和初期には花野井の地主、吉田甚左衛門が自分の土地と合せて約十萬坪の土地に、一周千六百mの「柏競馬場」を新設。昭和三年には、第一回の競馬会が開かれ、併設されたゴルフ場と共にその後長く続いた。しかし、第二次大戦の勃発と共に、この辺り一帯は軍需工場化が図られ、この地には日本光学が進出してきた。戦後になって一時は競馬場として復活したが、都心への通勤圏の拡大とともに、ここを敷地として、五階建百三棟、約五千戸、二万五千人が住むマンモス団地「豊四季団地」が建設され、入居はサラリーマンの憧れの的となった。時を経て、建物の老朽化、住民の高齢化に伴い、団地棟の大巾建て替えに際し、高齢化への対応策や建物の高層化、戸建て化等をどうミックスして考えるか・・・など課題は多い。今後さらにこの地域をどう変化させ、有効活用していくかを、多角的に検討せねばならないのではなからうか。

宇佐見房司（昭三七・商学）

お知らせ【新春の集い】

日 令和四年三月十三日（日）

所 柏クレストホテル

新型コロナウイルスの感染状況等により、開催中止となることもあります。

会員訃報（令和三年）

渡辺弓子様 二月八日逝去

伊原位泰様 三月二五日逝去

篠田泰一様 七月十日逝去

山之内克行様 十月十二日逝去

伊原氏は矢嶋前会長時代に長く幹事長を務め今日の柏稲門会の基盤作りに貢献されました。

謹んで皆様のご冥福をお祈り申し上げます。

編集後記

この編集時の十一月、コロナ感染者数は柏でもゼロから数人へと減少した。今号の特集は「ポストコロナへの期待」としたが、文字通り第六波を迎えることなく、終息してほしいものである。（M）

前号より、「柏稲門会だより」は、ウェブサイトで公開しています。紙面では収めきれなかった記事も全文を掲載していますので、そちらも併せてご覧ください。（N）

